

自然館だより

早春の探鳥会

三月五日(土)、
春の探鳥会が開催
されました。当日、

暦の上では、二十四節気の啓蟄という日にあたります。啓蟄は、冬ごもりしていた虫たちが地面にはい上がる頃とされています。今日は、天気は晴れましたが、吹く風がとても強く、帽子が飛ばされることもありま



したので、参加者は気を使っていたみたいです。まず、旧角島小学校に行きました。校庭には、鳥は殆ど見られませんでした。しかし、学校南側の海や砂

第4号

令和4年4月
発行
豊北町自然
観察指導員会
〒759-5332
下関市豊北町
角島 893-1
つしま自然館
083-786-0430
(兼 Fax)



浜には、ウミウ、アオサギなどがみられました。

次に中道(なかどう)漁港に行きました。ここには、オオミズナギドリの大群やウミアイ

サ、ウミウ、カモメ類など、何と岸から五〜六〇m程の海上に二〜三〇〇羽位の鳥が、乱舞しているのが見られました。皆さんも双眼鏡やカメラ等を手にして歓声をあげていました。

最後に牧崎です。ここは、さえぎるものが何もなく白波と強風ばかりが目立ちま

角島の瀬戸のわかめは人のむた
荒かりしかど我とはにぎめ

詠み人知らず

万葉集 第16巻(3871)



した。鳥たちは強風を避けて林の中で過ごしていたのでしよう。

また、今回は小学生の参加が多くありまして、子ども同士の交流も鳥の観察を通して生まれま

最後に鳥合せを行い、いつもより少ない一九種類の鳥を確認しました。

お知らせ

三月一三日(日)予定だった、打ち上げ貝観察会は、三月一日(金)、市内の小学校が一斉の臨時休校、一三日(日)まで外出自粛の措置が講じられましたので、参加予定の児童の安全を考慮して中止としました。

浜辺の教室

三月二二日(火)、
大浜海岸におい
て、浜辺の教室

を午後一時から三時まで開催しました。

打ち上げ貝観察会の中止を決定して急遽、開催する運びとなりました。

久村会員には、大浜海岸の地形の見方や海岸砂浜形成の歴史などを、そして、広瀬会長には浜辺の漂着物について、環境問題の視点から話してもらいました。町内の中学生も四名参加しました。

浜へ続く道を下りていくと一面の白い砂浜が目に見えてきます。これぞ、コバルトブルー・エメラルドグリーンと形容される浜に出ます。潮騒もいつもより大きく聞こえます。ところが、白い砂浜をよく見ていく



と白色の中に黒い炭のような粒が広い範囲に散乱しているのが分かります。広瀬会長がこの黒い粒は炭焼きをした際の残りです。砂に埋めていたものが風などで飛ばされて表面に出



てきたものです。」と話しました。次に久村会員が砂浜の見方について解説しました。

大浜には、浜崖(はまがけ)があります。浜の砂が風で吹き上げられただけなら砂浜は徐々に高くなるのですが、

浜の後背(こうはい)には急に高くなった砂丘が広がっています。この「急に高くなった段」のことを「浜崖」と言います。

浜には波打ち際から、前浜、それよりさらに陸地側の浜を後浜、後浜よりさらに後ろ側に「浜崖」があります。「浜崖」が均等な高さになっていないのは風の向きのせいだそうです。さらに、海浜植物のヤシ類やハマユウの繁殖の仕方、辻が浜と呼ばれる付近の灯台側の砂の地層は弥生時代の竜巻(つむじかぜ)によってできた。尾山の高い所に海の名残りの礫層があり、未だに解明されていないそうです。

波打ち際には、ウスババギやハリセンボン等

が打ち上げられていました。どうもこの時期

の低水温に対応できなかったそうです。また、ハマトビムシ等が砂浜の海藻や生き物の遺骸に潜んで珪藻等を食べ浜辺の掃除をしています。



海岸に広がるプラスチック製の漂着物については、自動車部品や容器の軽量化で輸送にかかる燃料や温室ガスを減らす

反面、廃棄されると分解せず水産資源に有害な影響を及ぼす海洋プラスチックの問題になってきていると話しました。



角島の砂浜が、長い時間をかけて形成されてきたのに人間の利便性の追求により急速に破壊されていることを知り、環境保全の大切さを考える良い機会となりました。